

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームとも
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県・鹿屋市
記入者名 (管理者)	西原 瑞容
記入日	平成20年 2月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念があり契約時にご家族への説明と配布、玄関やホール内にも掲げてある。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で共有できている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	行事等を通じ啓発に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方々への行事への参加の呼びかけや、近所の方から無償で畑を提供して頂き季節の野菜づくり等教えてもらったり収穫したものを分けて頂いたりしている。時にペット(猫・犬)の訪問もある。徐々に馴染みの関係が持ててきた。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入で回覧や有線放送での地域の情報も得て班の会や奉仕作業、花見など参加させて頂いている。また夏祭りや敬老会を行い近所や地域の方々への出演もお願いしている。その際のポスターの掲示は商店・郵便局等又案内放送の協力も頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	班会では、認知症の方々の理解を得る為グループホームの目的など話をさせて頂いた。敬老会では、地区の年配の方々の踊りや歌の披露の場として出演して頂きお互いに楽しめた。夏祭りにもと張り切っておられる。	○	夏祭りは楽しみに来てくださるが、お茶へのお誘いには遠慮がある様子。もっと働きかけ健康づくりになるような企画を検討しホームの方々と交流をして頂きたいと考える。デイサービスの実施を今後検討して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議にて報告。両ユニットで改善が無い意見求めている。18年度の結果は玄関に設置していつでも見ることができる。	○	もっとそれぞれの個性に合ったお部屋づくりを家族とできたらと思う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年度第1回4月26日の議題にて18年度の報告(結果の配布)をし意見も伺いました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が必要に応じ随時相談ができアドバイスが頂けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護職員スキルアップ研修会、施設内研修の中で一部の職員が講義を聞く機会があった。	○	全ての職員が理解して行けるよう今後も研修会への参加に努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と同様講師を招き職員は学び、家族へも家族会等で説明を行っている。身体拘束廃止委員会にて話し合っている。	○	職員来客用のトイレに高齢者虐待と思われる分類と例、身体拘束廃止となる具体的な行為の張り紙がしてあるが今後も意識付けて行けるよう働きかける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者はホーム長又はリーダーが同席して十分な説明を行い、説明に漏れが無いかが家族の理解の確認をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置もあるが、直接伺うものについては早期の解決に向け検討し改善を図るようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のとも便りや2ヶ月に1回の担当者便りの送付でのお知らせに加え、家族の希望する状況(随時・面会時・緊急時のみ等)において報告するようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時はいつでも気付きを書きとめて頂けるように玄関に意見箱を設置してある。それ以外では年2回の家族会や運営推進会議(入居者、家族の参加がある為)で意見を求めるようにしている。</p>	○
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議だけではなく、必要に応じいつでも意見や相談できるよう働きかけている。</p>	○ 職員間の食事会等も行い気軽に意見が言えるようにしている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その都度話し合い緊急時等では両ユニット間の職員の協力が得られている。</p>	○ 今後は職員が増え無理のない対応ができるようになると思う。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮がなされている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、グループホーム協議会、老施協の主催する研修以外にも施設内研修、グループホームでの勉強会、新入職員・新人研修を行っている。	
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修以外今までは職員の人数に余裕が無く実際行き来する交流は無かったが、電話等での情報収集や意見交換相談は行えた。	○ 機会を設けて取り組んでいきたい。
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	行事等を通じ職員の家族もホームに訪問する機会を設け仕事への理解や協力を得たり、日々のちょっとした悩みについては朝礼やミーティング等を利用し気兼ねなく相談しあえる状況がある。職員間の食事会を行って仕事を離れ楽しむ機会がある。	
22	<input type="checkbox"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務年数等を考慮し、該当する資格取得に向けた働きかけや研修等への参加を促している。職員会議にて他の職員の研修報告など聞く機会もある。職員のアイデアをまずは話し合い取り入れていく体制がある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ずご本人の自宅ないし病院や施設等相談時の生活の場を訪問している。可能ならば利用前にホームも見学して頂き接する中で希望や不安を聞き取るように努めている。個々の状態に柔軟に対応していく。	
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前にホームの見学は必ずして頂きその際に十分おかれている状況等伺い利用に至るまでの相談に対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の立場で在宅がなぜ困難なのか、グループホームの対象者かを見極めるようにしている。担当の介護支援専門員との連携を図るようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安の強い方については、可能な場合何度かお茶のみに来て頂き様子を見るようにしたり、事前の情報を家族、利用中のサービス機関から提供して頂くことで少しでも理解し職員が受け入れの準備ができるように計らうようにしている。	○	契約前に体験利用をして頂きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	面会等を利用して昔の経験等伺ったりすることで本人家族がどのような活動や行事への参加を希望されるか探り楽しめる機会を設けている。日常の中で得意とすることは職員が教えて頂く機会もあった。漬物・梅干し・そば打ち・昔からの慣わし等生き生きとした表情も見ることができた。		遠方にて面会が難しい方々もおられる。電話での対応も検討して頂くよう働きかけたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の同行への働きかけにて、随時の健康状態を主治医に伺ったり相談できるようにしている。又、受診同行のできない家族にはまめに变化して行くものについては報告して把握してもらう。夜間の面会も受け家族との時間が持てるようにしている。		本人の立場からまずは家族の援助を依頼してみるように努め家族の繋がりを
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族で対応できることはお願いしている。(馴染みの床屋の利用、墓参り等)本人の会いたい人への面会も働きかけている。誕生会へのお誘いをしている。	○	仕事の都合等により協力がもらえない家族がある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	一部の方は外出や外泊にて満足されているが全ての方ではない。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	支えあう場面はよく見られている。利用者同士のより良い関係を考え食卓の配置などを考えている。役割を持てるよう配慮する。	○	他者との関わりを好まない方については強制せずタイミングをみて交流されるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用中止後もご家族と良い関係が保てており年賀状も頂いた。相談が来ることもある。法人の特養へ移動された方については、本人の状況等も時間を設け面会等で把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めているが全てではない。	○	本人の希望時に対応できないこともあり、対応できる日程等の調整を図り説明するようになっている。できるだけ意向に沿った対応ができるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や利用者の話などから職員同士で情報の交換を行い把握に努めている。	○	まだ引き出す必要があり、担当者を中心に他の職員でも把握に努めケアプランに反映できるように努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が時間を気にした業務中心のケアがまだ見られる中、その人に合った過ごし方や気分の変化などは記録の実施で把握するように努めている。	○	持てる力を発揮されず、援助に頼る方が多い。自力を促し楽しみながら役割が担えるよう関わりを持ちたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からは話し合い時で意見を引き出すのは困難な為日々の全職員の記録が大事である。記録の工夫に努める。サービス担当者会議にて意見を求めている。	○	全ての職員で検討するのは困難にて日々の記録を基に主に担当者、家族、計画作成担当者にて見直しがなされている状況である。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実行表、業務日誌、を通じて新たな変化や気づきの記録に努めている。	○	もっと記録の工夫をしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に宿泊を呼びかけたが一組のみの利用しか無かった。	○	班会にて立ち寄りの声掛けを行ったが、地域の高齢者の集いの場になれば良いが施設との捉え方が強く、散歩をされる方にお茶をお誘いしても「今度ね」と遠慮される状況で検討する必要がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の危険な箇所(立木が茂り散歩の際見通しが悪かったり、台風時期に木、竹、枝が倒れる等)について地区の消防団や市の職員にて改善して頂いた。運営推進会議にて警察の方へ講話をして頂いた。吾平中学校の生徒を福祉体験学習にて受け入れた。	○	もっと協力が得られるよう働きかけたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	協力体制をとるよう検討中である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要と考えられる利用者がいない為取り組みがなされず。	○	協力体制をとるよう検討中である。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携はもちろん、利用者本人が通い入れた病院を希望された場合はそちらの先生の協力が得て継続して通えるよう働きかけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>個々に受診されている医療機関にて相談し協力を頂いている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホーム内に看護師兼介護職員2名がいる。また、週2回(火・金曜日)健康管理に来る看護師もおり随時で介護職は相談しアドバイスを得られる体制がある。看護日誌の記録がなされている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の期間や治療の内容により医師と家族にて話し合いをして頂きホームでの生活に問題が無ければ連携を図り早期退院をお願いしている状況である。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に家族へホームの看取りの方針を伝え意向は伺っている。</p>	<p>○ ホームを希望された方についてはどの程度医師の協力が得られるのかは実際事例が無い為、看護職員を中心にどのような終末期での援助が本人家族の希望なのか話し合い全職員で共有できるようにしている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>経験は無いが検討している。</p>	<p>○ 想定し必要な介護技術については不安の無いよう全ての職員を対象に今後も勉強会を行うようように考えている。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え後も必要な部分では強力をして行くように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で気を付けているがまだ徹底されていない。記録については管理できている。	○ 職員の意識付けに勤めて行く。身体拘束廃止委員会でもスピーチロックについての改善策等を具体的に話し合って改善に取り組み中である。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		○ 個々に合わせた説明やタイミングが悪いと、不安感が残ってしまう場合があり、本人の反応を見ながら自己決定を待つように努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ職員中心のケアになっている部分がある。	○ 職員の配置等の検討を行い、利用者の気持ちの理解に努めて利用者中心のケアに取り組んで行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望がある場合はそのように努めている。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の方が役割として材料の下ごしらえ、皿洗い、配膳下膳、テーブル拭きを行っている。食事は職員もみんな一緒に味付けや盛り付けに対し意見を求めることができる。朝食は特に本人の起床時間等配慮し声掛けを行い目が覚めてから食べて頂くように努めている。	○ できるのに参加されない方がおられる為職員の働きかけに工夫が必要だと思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その方の健康状態に合わせて日常的に提供している。ケアプランの検討時家族にも理解して頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態にて尿取りパットは使用しているが本人の了承にてオムツの方は日中はない。水分摂取の変動にて排泄の間隔が変わり誘導に失敗することもある。	○	スタッフ間の連携がもっと必要である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望の方へ事前に希望の時間を尋ねているが開始終了の時間は職員が決めている。	○	いつでも対応できる職員の配置を検討しゆっくり楽しんで頂きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の起床、就寝時間を尊重し支援している。お部屋以外の好きな場所(ソファ、畳台)で自由にされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間を通しいろいろな行事や日々の活動へ職員だけでなく、家族又地域の方々を含め一緒に参加して頂いていることで一層充実し支援できている。希望にて新聞の購読をされている方もおられる。畑は無償で提供してもらっている。		部屋で鉢物(トラノオ)が毎年花を咲かせている。近所の犬や猫が合いに来るのが楽しみである。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて支援は行えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に出入りをされている状況。敷地内での活動(洗濯物干し・野菜の観察・草取り・花の管理・グランドゴルフのパターの練習・散歩等)が多いが回覧板が回って来ると職員と散歩のついでで次のお宅へご一緒される場合もある。		建物の周りを散歩される方については、ふらつきがあり職員がご一緒している。又その為物があり歩行の障害となる物は片付けるよう心掛けている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気候の良い時期には自宅近くの馴染みの港や公園の花が見たいなどの要望が聞かれる。一部の方になりましたが家族と職員と鹿児島水族館へも出掛けて好評でした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が多く満足され電話の希望のある方は限られる。遠方の家族や親戚の方からの電話や便りは来ており楽しみにされている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋やホールの食卓、テレビの前のソファ等でゆっくりして頂いている。お茶を勧めたり、一緒に写真を撮らせて頂いたりしている。部屋で家族と食事をされることもあり、その際はホームの味噌汁等味見をして頂いたりもする。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束廃止委員会を発足させ職員全体で取り組んでいる。研修会以外でも施設内研修にて講師を招き取り組んでいる。3月1～2日にも予定がある。職員来客用のトイレに身体拘束廃止となる具体的な行為の張り紙をして意識付けて行けるよう働きかけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組みがなされている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の気分や意思の尊重にて支障が無ければ職員もともに行動することで問題はない。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫セット、爪切り、はさみ等個々の必要性や能力にて管理して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その都度の対応がされている。職員や場合によっては家族を含め対策を検討し再発防止に取り組んでいる。事故については市への報告も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議で看護師の指導にて勉強会は行ったが定期的ではない。実際緊急搬送を要することがあり職員は理解の重要性を実感している。	○	職員間の連携が必要にて冷静に対応できるよう自主防災訓練同様定期的マニュアル訓練を行うようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練については消防署の立会い以外にも努めて自主訓練を行うようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時やサービス担当者会議の際に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	随時でその日の職員は情報を共有し適切な対応を検討するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更時は責任を持って受診ノートへ他の職員へ申し送るようにしている。セット後の確認が重要。		不明な点は必ず医師か若しくは調剤師への確認を行い事故防止に努めており処方箋、調剤からの間違いに気付いた事もある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まずは薬に頼らず水分・食事の摂取状況、体を動かすこと、食事以外に排便を促す食品(からいも・ヨーグルト等)を用い、便秘の状態についてしっかり記録を行い、困難な状態については医師への報告をし適切な処方の検討をして頂く。効果が見られない場合は再度医師への報告を行い指示を頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨き対応6名、入れ歯洗浄剤使用が3名おられる。夜以外はうがいでだけでもして頂くように勧めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの制限のある方への配慮もあり、摂取必要に応じた個々の食器(ご飯、汁碗)を使用している。不足がちな方へは食間で高カロリー食品や好みの食べ物を取り入れている。脱水の恐れのある方については味を変えたり温かい物冷たい物等で摂取量が増やせるよう工夫している。1日のトータルの把握ができるようにする。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染症対策委員会を2ヶ月に1回開催しており看護師が出席し情報交換している。開催の都度テーマを挙げ検討したものは介護職への送りがなされている。法人のマニュアルを参照している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いうがいは基本とし、用具の殺菌消毒は随時行い清潔を保ち、食材の日持ちのしない買い置きはしないよう随時での購入がなされている。検食は毎食分を2週間分冷凍保存してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の環境を利用者様の興味を示す花や野菜、レクでの楽しみごとなどで、開放してありいつでも利用者が庭に出ることで、地域、近隣、その他郵便配達員、出入りの業者の方等と顔馴染みの関係が保て挨拶が交わせる明るい雰囲気づくりに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った模様替え(飾り物・花・衣替え等)トイレには脱臭作用のある墨を置いたり、朝の掃除以外でも気づいたら随時で行う。失禁等のあった場合では、シャワー浴の実施で不快の解消を図るなどの取り組みがある。食事やお茶の際はテレビは消し、いろいろな好みの音楽(クラシックを流すようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ばんこ(畳台)の活用でちょっと横になったり、洗濯物をたたんだりしている。	○	ぐると居室で囲まれたホールやローカやベランダ等が無いことに加え非難通用口が、お部屋以外に独りになるスペースは今のところ確保していない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電化製品や家具・ベッド等の配置は本人の希望や状態を考慮し、家族と相談後行うようにしている。家にあった鉢物を部屋で育てたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際はクーラーや暖房は切り換気を行うようにし、温度湿度計も設置し加湿器の使用も行って快適に近い状態にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有の場では活動しやすいよう家具の配置を変更したり、個々の使用する居室では本人が活動しやすい用具を用いている。(L字のベッド柵、シルバーカー等)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に合わせた援助がなされていない場面も見られる。職員が多分に援助を行う傾向がある。	○	個々の状態や性格に配慮した言葉かけやタイミングにて、職員が統一したケアの提供をすることで自尊心を傷つけることが無いように十分に話し合い対応して行く。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩時の楽しみとなるようにちょっとした野菜や花を植えている。少しの芝生ではあるがグランドゴルフのパターの練習ができる。玄関先のベンチは両ユニットの集いの場にもなっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらい
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらい
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

オープンし5年目が過ぎ馴染みの関係があらゆるところで築けて来たと思います。利用者様、ご家族、町内会、運営推進会議の委員の方々（市の担当者、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、市議役員を含む）、警察、消防署、商店、年間の行事や会議を通して皆さんに見守られ支えられホームの方々が安心して暮らせています。利用者様はそれぞれに個性もあり、それを支える家族も大変協力的で職員も明るく楽しんで仕事ができることが一番だと思います。法人の1事業所として研修への参加も施設内研修、新入職員研修、新人研修と段階を経て学ぶ機会もあり利用者様方の為に質の向上に施設全体で取り組める職場です。